

鳩山政権 6カ月

県関係議員の目線

民主党が圧勝した昨年の衆院選で鳩山政権が発足し、16日で半年を迎えた。国民の期待を背負つてのスタートだったが、政治とカネの問題や米軍普天間飛行場の移設問題など課題も次々に浮上。足取りはまだおぼつかない。一方、野党側も反攻勢のきつかけがつかめないまま。本県関係国会議員たちも新政の新たな風景の下、模索を続けている。各議員に鳩山政権の評価や課題を聞くとともに、この間の動きを追った。

昨年9月に政権が交代して以降、民主党の風間直樹参院議員は、国会図書館に頻繁に通うようになった。目的は政策の勉強。「1日に4回顔をだし、職員からレクチャーを受けている。そこで得たものを政策会議で発信したいと思つている。風間氏はそう語る。与党になつたにもかかわらず、地道な活動をする理由。それは、政策決定を内

政治主導

代わりに設置された政策会議は「政府に要望はできるが、議論がない」との批判が続出。各省の政務三役

政調廃止で減る見せ場

さを感じる県関係議員は多い。4日、政調の設置を目指す民主党議員約40人が国会

人脈を持つ筒井氏は「国会議員の意見を政策に反映させる必要がある。(小沢一は、政府提出法案などについて協議する「議員政策研究」の設置を決定。筒井が

自指す会の要望を受け党主党の「政治主導」の二環だったが、その手法をめぐっては改善を求める声も上

氏は「一定の評価はしたい」としながらも、研究会が機能するか見守る考えだ。

政調の廃止は、「官僚主導」から脱却するとして民府入りした西村氏も「予算編成で各大臣が査定役となり、外務省も厳しい見直しをした」と変化を強調する。その上で、「党内の国会議員に、政策立案にいかにかかわつてもうかがう試行錯誤が必要」と語り、政治主導の実現は「道半ば」との認識を示した。

間に一元化するため、党の政策調査会(政調)や部門会議が廃止されたことに対し

表舞台に立つ場面は少なく、風間氏以外にも、政策立案に携われないもどかし

野党時代に「ネクスト農相」を務め、党内に一定の



民主党国会議員の会合。本県の筒井信隆参院議員(右から4人目)らが参加した4日、議員会館

「役人を排除する必要はない。役人の知恵を活用すべきだ」と指摘するのは田中氏。官僚の答弁を禁止したことで、国会の委員会で政務三役が答弁にあたふたすることもあったという。

一方、「不完全ではあるが、政治主導は進んでいる」という森氏は、自公政権が廃止した生活保護の母子加算を復活させたこと、筒井も、予算の無駄を省く「事業仕分け」にかかわった経験から、予算編成が透明化したとみる。

本県議員でただ一人、政府入りした西村氏も「予算編成で各大臣が査定役となり、外務省も厳しい見直しをした」と変化を強調する。その上で、「党内の国会議員に、政策立案にいかにかかわつてもうかがう試行錯誤が必要」と語り、政治主導の実現は「道半ば」との認識を示した。

却脱み頼官 否賛に手法